

「七里の渡し」を通った琉球使節

江戸時代の日本は鎖国しているので、外国人が日本国内を旅行することは禁じられていたが、例外としてオランダ商館長、朝鮮通信使、琉球使節が江戸まで通行している。うち琉球使節の場合は、琉球国王即位の際の恩謝使と幕府將軍の就任の際の慶賀使とであり、寛永 11 (1634) 年から嘉永 3 (1850) 年まで 18 回である。

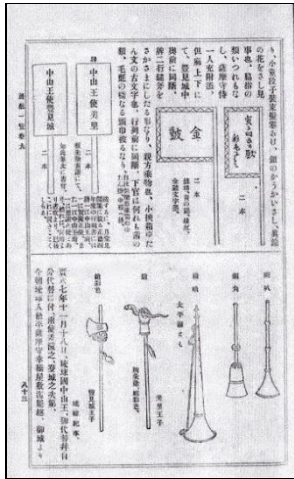
琉球使節が「七里の渡し」を通り、桑名に立ち寄ったことを示す史料は桑名に残っていないが、琉球使節が四日市宿清水本陣に休泊した記録 (『東海道四日市宿本陣の「基礎研究」2001 年岩田書院) では承応 2 (1653) 年 9 月 10 日泊 (往路)。天和 2 (1682) 年 3 月 25 日泊 (往路)。宝永 7 (1710) 年 10 月 28 日に泊まっている (往路)。土山宿土山本陣に休泊した記録 (『東海道士山宿本陣 土山家文書宿帳調査報告書』2009 年甲賀市教育委員会) では天和 2 (1682) 年 5 月 10 日に名護王子が休憩 (復路)。宝永 8 (1711) 年 1 月 5 日に美里王子が昼休 (復路) している。

宝永7年の琉球使節

12 代琉球国王・尚益王の即位の恩謝使として豊見城王子、6 代幕府將軍・徳川家宣の就任の慶賀使として美里王子が琉球国王から派遣されて来た。宝永 7 (1710) 年 7 月 2 日に琉球を出発し、130 隻の船が従った。閏 8 月 26 日に鹿児島を出発。船で 10 月 16 日大坂に到着、さらに淀川を川船で 20 日伏見に到着し、伏見を 25 日に出発。28 日には四日市で泊まって、白魚を食べている。その後は東海道を下り、11 月 11 日に江戸へ到着。芝にある薩摩藩の下屋敷に入った。琉球からの一行には楽人を含めて 166 人であり、付添いの薩摩藩関係者は 4,147 人であった。18 日に江戸城に登城して、將軍の謁見を受けた。琉球からの贈り物は儀刀・馬・螺鈿の机・縮緬・芭蕉布・久米島錦・寿帯香・泡盛酒などである。21 日には登城して、音楽を披露している。

11 月 30 日に上野の東照宮を参詣。12 月 18 日 (立春) に江戸発、宝永 8 年 1 月 5 日に土山宿で昼食。3 月 22 日に琉球へ帰着した。約 10 か月に及ぶ長旅であった。

一行は中国風の服装をして、**金鼓**と書いた旗 2 本と虎を描いた旗 2 本と掲げ、ラッパや銅鑼、鼓を鳴らしながら歩いた。この珍しい行進を当時の桑名の人たちは見た筈なのだが、桑名での記録が何も残っていないのは残念である。



「通航一覽」(国立国会図書館デジタルアーカイブスより)

次の正徳4(1714)年からは「七里の渡し」を通らず、美濃路回りになってしまった。